## 地域包括ケアネットワーク No.69

# 御津医師会における地域包括ケアの取り組みの近況と課題

御津医師会理事 難波 経豊

今回で、私がこのシリーズの原稿を書くのは３度目となり、当医師会での地域包括ケアに関連する取り組みは前述しましたので、今回は取り組みの近況についてご紹介します。

まず、当医師会が年一回、地域の医療介護福祉に関連するテーマを決め、地域住民を交えて開催している「地域医療学術シンポジウム」は、従来通り継続しています。第10回目となった昨年度は「延ばそう！健康寿命」をテーマとして開催し、医療介護の専門職、行政担当者、地域住民など、約180名が参加され、岡山済生会総合病院の犬飼道雄先生には健康寿命を延ばす食事について御講演頂いたうえ、当医師会エリアのいくつかの団体には、地域住民の健康寿命の延伸のために行っている取り組みについて御紹介いただきました。今年度は認知症をテーマとして開催予定です。

このシンポジウムに加えて昨年度からは、参加対象を医療介護の専門職および行政担当者に限定し、より専門的なテーマを専門的に議論する会として「医療介護連携フォーラム」を立ち上げ、年一回の開催を始めました。第１回目の昨年度は、医療介護の専門職および行政担当者の約100名が参加され、医療介護スタッフが受けるハラスメント、特に近年問題として取り上げられることが増えてきた訪問看護や訪問ヘルパーなど訪問系サービスのスタッフが患者または、利用者やそれらの家族などから受けるセクシャルハラスメントについて、事例を共有しながら対策などを議論しました。本年度は、病診連携や医介連携においてしばしば生じる「怒り」に焦点を当て、スムーズな連携のためにどのように対応すればよいかなど、アンガーマネージメントの講師を招聘して議論する予定です。

なお、昨年度からは「地域医療学術シンポジウム」および「医療介護連携フォーラム」のいずれにおいても準備段階から、当医師会会員の医師だけでなく、地域の訪問看護、ケアマネジャー、病院の地域連携室スタッフなど、地域包括ケアに携わる医療介護の専門職の方々にも参加いただき、その方々の意見も取り入れながら、協同で会を計画および実施するスタイルを取り入れています。

最後に、昨夏の水害では当医師会エリアでも多くの住民が被災されました。家の被害により転居を余儀なくされた方々も多くみられます。山間地域では特に高齢者が多く、一時的な避難所においても健康管理が不可欠です。避難所で体調が悪くなった、また認知症の方も多いことから帰宅願望に困ったなどの話も聞きました。このような末端における災害時の対応についても、他の福祉関連団体と協力しながら、地区医師会が一翼を担うべき地域包括ケアに含まれるのではないかと思います。資金力も乏しく会員への強制力もない地区医師会にできることは限られているとは思いますが、今後も起こりうる災害時において、地域住民の健康管理のために地区医師会として何ができるのか、考えていくべきであろうと思います。